

平成23年度 文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」

放射線災害復興を推進する フェニックスリーダー 育成プログラム

*Phoenix Leader Education Program (Hiroshima Initiative)
for Renaissance from Radiation Disaster*

平成25年度 改善進捗状況報告書



広島大学
— Hiroshima University —

はじめに

「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」は、原爆災害からの復興を支えた広島大学の経験と国の三次被曝医療機関としての実績を背景に、幅広い学際的な知識を基盤として放射線災害に適切に対応し、明確な理念の下で復興を指導できる判断力と行動力を有したグローバルリーダー（フェニックスリーダー）を育成することを目指した博士課程学位プログラムです。本プログラムは、広島大学内の8研究科・部局、福島県立医科大学、東北大学、福島大学、長崎大学、放射線影響研究所及び放射線医学総合研究所の現在総勢56名のプログラムメンバー並びにIAEA、WHO、国際赤十字社や国内外の多くの研究機関や企業との連携により推進しています。

本プログラムは、文部科学省が2011年度より開始した、大学院教育の抜本的改革を促進し産学官を巻き込んだ世界に通用する質を備えた、4年あるいは5年一貫の学位プログラム、すなわち「博士課程教育リーディングプログラム」の複合領域型（分野横断）として採択され、2017年度まで支援を受ける予定です。

本プログラムも開始より二年目を迎え、教員、職員、大学院生が一丸となってより実践的なカリキュラムの数々をこなし、着々と前進しています。学生の不満やメンバー間の意思疎通の齟齬等、様々な問題がありますが、日々体当たりで取り組みながら、皆で真の「フェニックスリーダー」を追い求める日々です。

2013年10月1日には、様々な国からの留学生を含む11名が第2期生として入学しました。そして2年生となった第1期生8名は、短期フィールドワーク、短期インターンシップと新たな体験を積んで大きく成長しています。第2期生も早い段階で被災地へのショートフィールドビジットを行い、放射線災害の現場を目の当たりにしました。

本報告書は、昨年度の外部評価委員会の評価における指摘事項や低評価だった基準から、本プログラムの改善すべき課題をピックアップし、平成25年度の活動に基づいて、それらの課題の改善進捗状況を示したものです。本報告書に基づいて、国内外の産学官界の皆さんによる評価とご助言を頂くことで、本プログラムを全世界の期待に応える人材育成プログラムとしてさらに成長させて行きたいと考えています。忌憚のない評価・助言を賜れば幸いです。

平成26年1月

広島大学大学院 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
プログラム責任者 広島大学 理事・副学長 岡本 哲治

平成25年度
放射線災害復興を推進するフェニックスリターナー育成プログラム
改善進捗状況報告書

目次

| 番号 | 事項 | 頁 |
|-----|-----------------------------------|---|
| I | 前年度総括における指摘事項に関する改善 | |
| 課題1 | カリキュラムにおける幅広さ（共通分野）と深さ（専門分野）双方の充実 | 1 |
| 課題2 | フェニックスリターナーの能力の特性を示す学位 | 1 |
| 課題3 | 本プログラムの国際的な広報及び入学者の募集 | 2 |

| II | | 前年度低評価項目《基準3「担当者及び教育支援者」に関する改善 | | |
|-------|-------------------------------|--------------------------------|------|------|
| 前年度評点 | 観点② | 3.38 | 総合評価 | 3.25 |
| 課題1 | メンタルケアの面からの支援者に関する評価 | 3 | | |
| 課題2 | 直接現場と向き合っている人材による「現場的・実践的」な指導 | 4 | | |
| 課題3 | 社会復興コース、社会科学分野のプログラムの担当者の充実 | 4 | | |

| III | | 前年度低評価項目《基準5「教育内容及び方法」に関する改善 | | | |
|-------|--|------------------------------|------|------|--|
| 前年度評点 | 観点① | 3.38 | 総合評価 | 3.38 | |
| 課題1 | プロジェクトをリーダーとして達成するための機会 | 5 | | | |
| 課題2 | 所属研究科における十分な研究成果の達成 | 5 | | | |
| 課題3 | 学生及び教員・指導者間の日常的な対面コミュニケーション | 6 | | | |
| 課題4 | リーダーシップ育成のためのカリキュラム | 7 | | | |
| 課題5 | 学生同士の交流や自主的に共同して活動に取り組む仕組み | 7 | | | |
| 課題6 | カリキュラムにおける自然科学・医療分野偏重の是正 | 8 | | | |
| 課題7 | 個別化された進路指導プログラム | 8 | | | |
| 課題8 | プログラムにふさわしい教育内容及び方法の確立（STS、フィールドプロジェクト、科学コミュニケーション等） | 9 | | | |

| IV | 前年度低評価項目《基準6「教育の成果」》に関する改善 | | |
|-------|----------------------------|------|----|
| 前年度評点 | 総合評価 | 3.25 | |
| 課題1 | フェニックスリーダーとしての資質を評価するための工夫 | | 10 |
| 課題2 | カリキュラムマップの定期的な改訂 | | 10 |
| 課題3 | カリキュラムマップにおける教育方法・評価方法の明示 | | 11 |

| V | 前年度《その他の基準》に関する改善 | | |
|-----|----------------------------------|--|----|
| 課題1 | 産業界、行政機関との連携 | | 13 |
| 課題2 | 学生の自主的活動を促す仕組み | | 13 |
| 課題3 | ファカルティーディベロップメントに関する評価 | | 14 |
| 課題4 | eラーニングポートフォリオ等を活用した学生、プログラム活動の蓄積 | | 14 |
| 課題5 | プログラム運営態勢の再編 | | 15 |

I 前年度総括における指摘事項に関する改善

フエニックススリラーター育成プログラム外部評価委員会の各委員によって記載された平成24年度「外部評価報告書」の「I 総括」の内容から、以下の3点の課題を抽出し、それぞれについて下記のように改善策を講じた。

課題1

カリキュラムにおける幅広さ（共通分野）と深さ（専門分野）双方の充実

【改善進捗状況】

フエニックススリラーター育成プログラム第2回リトリート（平成25年12月14日～15日）中に、初のフエニックススリラーター育成プログラム教員・学生意見交換会を開催した。カリキュラムをはじめプログラムの様々な事柄について、教員と学生とが直接意見を述べることが出来る場がなかったこともあり、研究と講義、所属研究科の活動とプログラムの活動等、分野横断的学修に取り組む学生達の多忙さや不便に感じていることなどが率直に述べられた。

こうした意見は今後のカリキュラムの充実のために用い、この教員・学生意見交換会も継続的に開催することとしている。

【改善進捗状況報告書資料集】

1 フエニックススリラーター育成プログラム教員・学生意見交換会細則
2 第2回フエニックススリラーター育成プログラムリトリート報告書

課題2

フエニックススリラーターの能力の特性を示す学位

【改善進捗状況】

本プログラムを修了した場合は、博士（「専攻分野」）（放射線災害復興学を推進するフエニックススリラーター育成プログラム）の学位を取得することができる。

なお、本プログラムの集大成及び本プログラムを履修し学位を修得したフエニックススリラーターの卓越性を示しうる独自のカリキュラムとしての「放射線災害復興学」に

ついて現在、その実施計画（案）の作成に着手している。

【改善進捗状況報告書資料集】

3 フェニックスリーダー育成プログラム「放射線災害復興学」の検討について

課題3

本プログラムの国際的な広報及び入学者の募集

【改善進捗状況】

以前から指摘されていたグローバルな広報体制に関しては、今年度は以下の世界各地の有力な学術拠点において本プログラムの説明会を行うことで強化・充実を図った。

○ブラジル：広島大学ブラジルセンター，高等教育支援評価機構（CAPES），国家科学技術審議会（CNPq），サンパウロ大学（USP），ブラジル連邦大学工学部

○ベトナム：国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学，ホーチミン市医科薬科大学

○インドネシア：インドネシア原子力・エネルギー庁，BOS 財団等

○台湾：台北医学大学，政治大学，広島大学台湾研究センター，中央大学等

また，以下の学術誌及びホームページにおいても本プログラムの入学者募集広告を掲載し，国内外を問わず本プログラムの周知徹底を図り，学生募集を行った。

○教職課程（平成25年6月号，1月号）

○実験医学（平成25年5月号，12月号）

○細胞工学（平成25年4月号，12月号）

○Journal of Radiation Research（平成25年5月号）

○web 大学大学院展

さらに平成25年6月7日には，ベトナムで初の外国人留学生推薦選抜試験を実施し，4名のベトナム人学生をプログラム履修生として迎え入れた。

【改善進捗状況報告書資料集】

4 ブラジル（サンパウロ，ブラジル）留学セミナー報告書（抄）

5 台湾（台北）留学生セミナー報告書（抄）

6 学術誌に掲載したフェニックスリーダー育成プログラムプログラム広報資料

7 フェニックスリーダー育成プログラム外国人留学生推薦選抜試験実施計画書

II 前年度低評価項目《基準3「担当者及び教育支援者」》に関する改善

平成24年度「外部評価報告書」では、9の基準及び更なる下位項目の諸観点に対し、フェニックスリサーチ育成プログラム外部評価委員会の各委員がそれぞれ4段階で評価を下した。その選択肢のうち「満たしている」を4点、「概ね満たしている」を3点、「部分的に改善の必要がある」を2点、「多大な改善の必要がある」を1点として算出し、全委員の平均評価が3.5点未満だった基準及び観点については、それぞれ以下のように課題を抽出し、改善策を講じた。

《基準3「担当者及び教育支援者」》

平成24年度「外部評価報告書」の基準3「担当者及び教育支援者」は、観点②の平均評価が3.38、総合評価の平均評価が3.25であり、対策の必要があると判断した。観点②：プログラムにおいて学生の指導を担当する教員は、「放射線災害の複合的な被害からの復興を横断的かつ統合的にマネジメントする「フェニックスリサーチ」を育成する」というプログラムの目的に対して適切か。

課題1

メンタルケアの面からの支援者に関する評価

【改善進捗状況】

プログラムを履修する学生の意見や不満、不便に感じていること等を聞き、学生のメンタルケア及び教員と学生とのコミュニケーション、さらにはカリキュラムの見直し等を図るためのフェニックスリサーチ育成プログラム教員・学生意見交換会を開催した。この会は今後も継続的に開催する予定である。

【改善進捗状況報告書資料集】

1 フェニックスリサーチ育成プログラム教員・学生意見交換会細則
2 第2回フェニックスリサーチ育成プログラムリトリート報告書

課題2

直接現場と向き合っている人材による「現場的・実践的」な指導

【改善進捗状況】

企業・行政と本プログラムとの連携体制の充実を図るために、現在「フェニックスリーダー育成プログラムキャリアパスの構築」に向けて準備中であり、将来的にはこの「コンソーシアム」に参加する学外のメンバーにも博士論文研究基礎力審査（QE: Qualifying Examination）に参加する体制を構築する予定である。

また、そのために「博士論文研究基礎力審査実施要項」を作成し、この「博士論文研究基礎力審査（QE）」の政策的な枠組みに関するプログラム内及び全学における共通理解を形成するために、教職員を対象とした教育セミナーを現在までに4回開催している。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 8 フェニックスリーダー育成プログラムキャリアパスの構築と充実（抜粋）
- 9 フェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要項
- 10 フェニックスリーダー育成プログラム教育セミナー

課題3

社会復興コース、社会科学分野のプログラム担当者の充実

【改善進捗状況】

放射能社会復興コースのプログラム担当者を新たに5名追加し、社会科学分野の充実を図った。

その結果、平成25年8月に実施されたフェニックスリーダー育成プログラム短期フィールドワークにおける放射能社会復興コースの内容が充実したものになった。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 11 フェニックスリーダー育成プログラムプログラム担当者名簿

到達目標に対する評価基準表における研究能力を明示し、研究成果の達成と評価を的確に行うために、「学修目標に対する到達度確認に関する取扱い」「到達基準(rubric)」「大学院生の到達度自己評価」「成績評価のガイドライン」等を作成した。加えて「博士論文研究基礎力審査 (Qualifying Examination) 実施要領」を策定し、

【改善進捗状況】

所属研究科における十分な研究成果の達成

課題2

12 第3回フェニックスリサーチ育成プログラム国際シンポジウム大学院生発表等要領 (抜粋)

【改善進捗状況報告書資料集】

運営担当者や司会進行役等の決定を行っている。
 国際シンポジウムにおいては、学生からリサーチを選出し、そのリサーチ主導のもと、平成26年2月15日、16日に開催予定のフェニックスリサーチ育成プログラム学生にプロジェクトの立案及び推進を経験させるための機会として、第3回にあたる平成26年2月15日、16日に開催予定のフェニックスリサーチ育成プログラム

【改善進捗状況】

プロジェクトをリサーチとして達成するための機会

課題1

観点①：教育の目的や授与される学位に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものとなっているか。
 平成24年度「外部評価報告書」の基準5「教育内容及び方法」は、観点①の平均評点が3.38、総合評価の平均評点も3.38であり、対策の必要があると判断した。

《基準5「教育内容及び方法」》

《方法》に関する改善

Ⅲ 前年度低評価項目《基準5「教育内容及び方法」》

リサーチワークの評価方法を明記した。

また、学生の専門分野における資質を高めるためにも、既に設置された広島大学フェニックストレーニングセンターにおいて行われる「共通コースワーク」のための実施要領を策定し、分野横断型の研究能力について、修得の目標と評価の方法を明記した。

さらに研究成果に結びつけられるようなフィールドワークを実施するために、短期フィールドワークにおけるアカデミックライティングの評価基準を明示した。それに伴い「フィールドワーク実施要領」を作成し、短期フィールドワークを実施した。

現在は、長期フィールドワークに向けてそれぞれの大学院生と指導教員が行き先の精査等の準備に取りかかっている。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 13 フェニックスリーダー育成プログラム学修目標に対する到達度確認に関する取扱い
- 14 フェニックスリーダー育成プログラム到達基準(rubric)
- 15 フェニックスリーダー育成プログラム大学院生の到達度自己評価
- 16 フェニックスリーダー育成プログラム成績評価のガイドライン
- 17 フェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領(抜粋)
- 18 フェニックスリーダー育成プログラム共通コースワーク実施要領(手引き)(抜粋)
- 19 フェニックスリーダー育成プログラム短期フィールドワーク実施要領(手引き)(抜粋)

課題3

学生及び教員・指導者間の日常的な対面コミュニケーション

【改善進捗状況】

学生と教員とでさらにコミュニケーションを深めるため、フェニックスリーダー育成プログラムリトリート実施要項及び実施計画書を作成し、第1回フェニックスリーダー育成プログラムリトリートを平成25年7月5日から6日にかけて開催した。

本リトリートには原子力規制庁の中桐裕子氏、南相馬市立総合病院副委員長の及川友好氏、IAEAのDr. Chhem氏らを講師として招き、学生と積極的な議論を交わした。

第2回リトリートも既に平成25年12月14日と15日に開催され、講師として招聘された文部科学省原子力災害損害賠償対策室長の谷浩之次長、南相馬市立総合病院副院長の及川友好氏、広島大学理学研究科教授井出博氏、北海道大学工学研究院教授の行松泰弘氏の講演を聞いて学生達は積極的に意見交換及び研究進捗状況の発表

各種セミナーの実施準備等を通じて、学生は自主的に相互に交流し、活動に取り組み
2回のリトリートの開催や国際シンポジウムにおける学生主体の運営態勢，加えて

【改善進捗状況】

学生同士の交流や自主的に共同して活動に取り組む仕組み

課題5

18 フェニックスリーダー育成プログラム共通コースワーク実施要領(手引き) (抜粋)
19 フェニックスリーダー育成プログラム短期フェニックスワーク実施要領(手引き) (抜粋)

【改善進捗状況報告書資料集】

を行っている。

トレーニングセンターで行われる予定の共通コースワークの実施要領を策定し準備
のカリキュラムとして、短期フェニックスワークを実施し、また広島大学フェニックス
フェニックスリーダーとして、分野を超えた知識基盤及び実践技術を習得するため

【改善進捗状況】

リーダーシップ育成のためのカリキュラム

課題4

10 フェニックスリーダー育成プログラム教育セミナー
22 フェニックスリーダー育成プログラム分野融合セミナー実施要領 (抜粋)
21 第2回フェニックスリーダー育成プログラムリトリート実施要領 (抜粋)
20 第1回フェニックスリーダー育成プログラムリトリート実施要項 (抜粋)

【改善進捗状況報告書資料集】

についての教育セミナーをこれまでに4回行っている。

同時に教員のプログラムへの理解を深めるために「博士論文研究基礎力審査(QE)」
リーダー育成プログラム分野融合セミナー実施要領」を作成した。

さらに学生同士の交流や教員とのコミュニケーションを目的とした「フェニックス
コミュニケーションセッション」を深化させる機会となった。

また、この第2回リトリートにおいては、教員・学生意見交換会も行われ、双方の
を行った。

できている。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 20 第1回フェニックスリーダー育成プログラムリトリート実施要項（抜粋）
- 21 第2回フェニックスリーダー育成プログラムリトリート実施要領（抜粋）
- 12 第3回フェニックスリーダー育成プログラム国際シンポジウム大学院生発表等要領（抜粋）

課題6

カリキュラムにおける自然科学・医療分野偏重の是正

【改善進捗状況】

これまでに実施された短期フィールドワークや今後実施される予定の共通コースワークにおいては、自然科学・医療分野に関するカリキュラムだけでなく、「Business Continuity Management (BCM)」や「放射線災害リスク管理・防災演習」等、積極的に人文社会系のカリキュラムが取り入れられており、学生は自然科学・医療分野のみに偏重することなく分野横断的に知識・技術を身につけられる体制を整えている。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 18 フェニックスリーダー育成プログラム共通コースワーク実施要領（手引き）（抜粋）

課題7

個別化された進路指導プログラム

【改善進捗状況】

進路指導プログラムを策定するためにも、現在、短期・長期インターンシップとしての学生の受け入れ先企業との連携体制を強化し、短期インターンシップを順次実施している。

規約としては「フェニックスリーダー育成プログラム短期インターンシップ実施要項」及び「実施要領」を策定し、新たな協力企業として（株）千代田テクノルと広島大学とで短期インターンシップにおける学生受け入れのための覚書を正式に締結しており、本プログラムの学生が実際に短期インターンシップをスタートさせている。

加えて1月中旬より、短期インターンシップとしてIAEAへScientific Visitと称して学生を順次派遣している。

課題8

プログラムの目的にふさわしい教育内容及び方法の確立(STS, ショートコース等)
シット, 科学コミュニケーション等)

【改善進捗状況】

入学時から本プログラムの目的を共通理解させるため、第1回フェニックスリター
育成プログラムショートコースを実施した。平成26年3月の春期休
業等を利用して今後もショートコース等を実施し、分野横断的なフェニ
ックスリターを輩出するというプログラムの目的に適合した教育を提供する。

【改善進捗状況報告書資料集】

25 第1回フェニックスリター育成プログラムショートコースプロジェクト実施要項(抜粋)

【改善進捗状況報告書資料集】

また、福島大学らつくしまふくしま未来支援センターが推進する「郷土に想いを寄
せる「同窓会」事業への短期インターシップ及びボランティア実習としての学生受
け入れについても、協議が進められている。

23 フェニックスリター育成プログラム短期インターシップ実施要領(抜粋)
24 (株)千代田テクノルの寛書

IV 前年度低評価項目《基準6「教育の成果」》 に関する改善

《基準6「教育の成果」》

平成24年度「外部評価報告書」の基準6「教育の成果」は、平均評点が3.25であり、対策の必要があると判断した。

課題1

フェニックスリーダーとしての資質を評価するための工夫

【改善進捗状況】

カリキュラムに対する学生の学修到達度を適切に評価するために、「学修目標に対する到達度確認に関する取扱い」「到達基準（rubric）」「大学院生の到達度自己評価」「成績評価のガイドライン」等を作成した。

また、「博士論文研究基礎力審査（Qualifying Examination）実施要領」を策定し、国際力、学際力、マネジメント力の評価方法を明示した。

加えて e-ラーニングポートフォリオシステムに学生個々の成果確認のページを設置し、使用方法の説明を行った。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 13 フェニックスリーダー育成プログラム学修目標に対する到達度確認に関する取扱い
- 14 フェニックスリーダー育成プログラム到達基準(rubric)
- 15 フェニックスリーダー育成プログラム大学院生の到達度自己評価
- 16 フェニックスリーダー育成プログラム成績評価のガイドライン
- 17 フェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領（抜粋）
- 26 e-ラーニングポトフォリオ利用説明書（学生用）

課題2

カリキュラムマップの定期的な改訂

【改善進捗状況】

14 フェニックスリダー育成プログラム到達基準 (rubric)

13 フェニックスリダー育成プログラム学修目標に対する到達度確認に関する取扱い

【改善進捗状況報告書資料集】

ルプログラムの手引き」に沿って短期フェニックスプログラムが行われた。

なお、2年次生を対象にカリキュラムマップに基づく評価方法を記載した「フェニックス」に関する資料を添付した。

さらに平成25年度10月入学者用に作成した「フェニックスリダー育成プログラムガイドブック」に「カリキュラムマップの取扱い」等の評価方法・基準や教育方法方法を説明し、自己の達成度評価を教員と共有できるようにした。

また、学生にはe-ラーニングポータルサイトにおける成果確認ページの開設と使用に関する教育セミナーを4回開催することで教員間で理解を共有した。

加えてそれに基づく「博士論文研究基礎力審査 (QE) 実施要領」を策定し、それに「成績評価のガイドライン」等を作成した。

する到達度確認に関する取扱い」「到達基準 (rubric)」「大学院生の到達度自己評価」カリキュラムマップに基づく教育方法・評価方法を明示するために「学修目標に対

【改善進捗状況】

| |
|---------------------------|
| カリキュラムマップにおける教育方法・評価方法の明示 |
|---------------------------|

課題3

27 フェニックスリダー育成プログラムにおけるカリキュラムマップの取扱い

10 フェニックスリダー育成プログラム教育セミナー

19 フェニックスリダー育成プログラム短期フェニックス実施要領(手引き) (抜粋)

1 フェニックスリダー育成プログラム教員・学生意見交換会細則

2 第2回フェニックスリダー育成プログラムリトリート報告書

【改善進捗状況報告書資料集】

学生意見交換会において、学生からのカリキュラムについての意見を聴取している。

第二にカリキュラムの改訂に備えて、第2回リトリートにおいて開催された教員・既に実施された短期フェニックスプログラムにおいても徹底され、共通理解を確立している。

育セミナーをこれまで4回開催している。またこうした目標ベースの指導・評価は法に関する共通理解を確立するため、「博士論文研究基礎力審査 (QE)」についての教

第一にカリキュラムマップに基づく授業計画及び実施に関して、教育方法・評価方

- 15 フェニックスリーダー育成プログラム大学院生の到達度自己評価
- 16 フェニックスリーダー育成プログラム成績評価のガイドライン
- 17 フェニックスリーダー育成プログラム博士論文研究基礎力審査実施要領（抜粋）
- 10 フェニックスリーダー育成プログラム教育セミナー
- 26 e ラーニングポトフォリオ利用説明書（学生用）
- 28 フェニックスリーダー育成プログラムガイドブック 2013（抜粋）
- 19 フェニックスリーダー育成プログラム短期フィールドワーク実施要領（手引き）（抜粋）
- 27 フェニックスリーダー育成プログラムにおけるカリキュラムマップの取扱い

V 前年度《その他の基準》に関する改善

平成24年度「外部評価報告書」の中から、特に低評価ではなかったものの、外部評価委員会委員のコメントを参照してプログラムの課題をピックアップし、改善進捗状況を調査した。

課題1

産業界、行政機関との連携

【改善進捗状況】

企業・行政と本プログラムとの連携体制の充実を図るために、現在「フエニックスリーダー育成プログラムキャリアパスの構築」に向けて準備中であり、また短期インターシップの実施に向けて、(株)千代田テクノルの「覚書」を取り交わし、協力企業として連携を深めることにした。

【改善進捗状況報告書資料集】

8 フエニックスリーダー育成プログラムキャリアパスの構築と充実 (抜粋)
24 (株) 千代田テクノルの覚書

課題2

学生の自主的活動を促す仕組み

【改善進捗状況】

平成26年2月に第3回が開催される国際シンポジウムでは、学生主体の運営を行い、学生が相互にコミュニケーションを取り、また切磋琢磨する環境を用意している。そのため、東広島キャンパスの教育研究科棟 K217 号室、霞キャンパスの第2中央診療等 303 号室を大学院生室とし、「フエニックスリーダー育成プログラム大学院生室 (東広島キャンパス) の利用方法等について」、「大学院生室 (霞キャンパス) の利用方法等について」を作成した。

また、東広島キャンパスの教育研究科棟 B809 号室及び B819 号室を多目的の大学院生室及びグローバルスキル育成センターとして利用するために使用申請中である。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 29 フェニックスリーダー育成プログラム大学院生室（東広島キャンパス）の利用方法等について
- 30 フェニックスリーダー育成プログラム大学院生室（霞キャンパス）の利用方法等について
- 31 広島大学弾力的活用スペース（レンタルラボ）使用申請書
- 12 第3回フェニックスリーダー育成プログラム国際シンポジウム大学院生発表等要領（抜粋）

課題3

ファカルティーデベロップメントに関する評価

【改善進捗状況】

プログラム教員の教育能力を高めるために、「博士論文研究基礎力審査（QE）」に関する教育セミナーを計4回開催し、本プログラムの教育の到達度基準や評価方法について情報を共有した。

また、本プログラムの活動状況を蓄積するために「フェニックスリーダー育成プログラム活動報告書」及び「フェニックスリーダー育成プログラム規則・要項集」を作成し、教員間情報共有を図った。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 10 フェニックスリーダー育成プログラム教育セミナー
- 32 フェニックスリーダー育成プログラム活動報告書 2013.10（抜粋）
- 33 フェニックスリーダー育成プログラム規則・要項集 2013.10（抜粋）

課題4

e-ラーニングポートフォリオ等を活用した学生、プログラム活動の蓄積

【改善進捗状況】

プログラム教員の教育能力を高めるために、「博士論文研究基礎力審査（QE）」に関する教育セミナーを計4回開催し、e-ラーニングポートフォリオシステムを活用した学生の学修状況把握方法についても指導教員相互間で理解を共有した。

e-ラーニングポートフォリオシステムに学生個々の成果確認のページを設置し、使用方法の説明を行った。

また、授業支援システム WebCT と e-ラーニングポートフォリオを連携させた活動報

課題5

プログラムの運営態勢の再編

【改善進捗状況】

プログラムの各種会議の整理を行い、より効率的なプログラムの運営態勢を図るために、新たに「ヒロシマ・フェニックス・トレーニンゲスター (HiPTC) 運営委員会」を設置し、今後開始される共通コースワークのための準備態勢を整えている。

【改善進捗状況報告書資料集】

- 34 フェニックスリーダー育成プログラムヒロシマ・フェニックス・トレーニンゲスター細則
- 18 フェニックスリーダー育成プログラム共通コースワーク実施要領(手引き) (抜粋)

【改善進捗状況報告書資料集】

告の仕組みに基づき、WebCTへの報告書提出を徹底した。同時にキャンパス外での各種研修やセミナー、学会参加等を学修活動の一部として考慮するために「分野融合セミナー実施要領」を策定し、eラーニングポータルサイトにおける学修活動の報告を取り入れた授業方法を確立した。

- 10 フェニックスリーダー育成プログラム教育セミナー

- 26 eラーニングポータルサイト利用説明書 (学生用)

- 22 フェニックスリーダー育成プログラム分野融合セミナー実施要領 (抜粋)

おわりに

本リーディングプログラムも平成25年度の10月で2年目に突入し、この度第2回の評価委員会を開催するところまで来ました。今回は、昨年度の大学教育認証評価の評価基準に従った自己評価とは別に、それぞれ専門領域の異なる外部評価委員の方々には、昨年度の指摘事項や低評価項目の改善進捗状況を中心に、本プログラムの教育内容や教育成果についてじっくりと評価していただくという形を採らせていただきました。

本プログラムは未だ発展途上にありますが、今年度は短期フィールドワークやショートフィールドビジット、リトリートといった多くの実践的な活動を行い、学生たちも大きく成長した一年となったと思います。

最後に、今年度も無事外部評価委員会を迎えられたことについては、そのためにご協力していただいた教員、研究員、教育研究推進員、事務職員の努力の結果であると思います。

評価委員会は、これらの方々の本プログラムに係る種々のご尽力に対し、厚く感謝申し上げます。

広島大学大学院 放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
評価委員会一同

評価委員会委員

| 職名 | 氏名 | 所属 | 役割分担 |
|-----------|-------|--------------|--------------------------|
| 理事 副学長 | 岡本 哲治 | 社会連携・広報・情報担当 | プログラム責任者 放射線災害医療コース担当 |
| 所長 | 神谷 研二 | 原爆放射線医科学研究所長 | コーディネーター 放射線災害医療コース担当 |
| 教授 | 小林 正夫 | 医歯薬保健学研究院 | 放射線災害医療コース担当 |
| 教授 | 澤 俊行 | 工学研究院 | 放射線環境保全コース担当 |
| 教授 | 岩 永 誠 | 総合科学研究科 | 放射能社会復興コース担当 |
| 特任教授 | 観山 正見 | 学長室 | 放射能環境保全コース担当 |
| 特任教授 | 利島 保 | 医歯薬保健学研究院 | 放射線災害医療コース担当 |

【お問い合わせ先Inquiries and Submission】

広島大学大学院リーディングプログラム機構

フェニックスリーダー育成プログラム事務局

The Organization of Leading Graduate Education Program, Hiroshima University

Collaboration Office of Education and International Office

〒739-8524 広島市鏡山1丁目1番1号

1-1-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, 739-8524

TEL: 082-424-4689・4638

E-Mail: phoenix-program@office.hiroshima-u.ac.jp

URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/lp/program/ra/>